

第2期 栄村 総合戦略

～ え～まち、え～ひと、え～しごとのあるえ～村へ ～



令和2年3月

栄 村

目 次

第1章 総合戦略策定に係る基本的な考え方	1
1. 総合戦略策定の趣旨	1
2. これまでの取組の成果・検証	2
(1) 基本目標1 「やりたい仕事ができる村づくり」	2
(2) 基本目標2 「若衆や女衆が集まる村づくり」	2
(3) 基本目標3 「安心して出産し子育てできる村づくり」	2
(4) 基本目標4 「いきいきと暮らせる村づくり」	2
3. 総合戦略の構成	3
(1) 総合戦略の位置づけ	3
(2) 施策の方向性	3
4. 計画期間	4
第2章 総合戦略策定のポイント	5
1. 本村の将来像	5
2. 村民の意識調査	5
(1) 村民アンケートの概要	5
(2) 村民アンケートからみえる本村の現状と課題	6
2. 基本目標（4つの基本目標の中で特に重点的に進めるべき施策）	12
(1) 検討するべき対応策	12
(2) 目指すべき4つの基本目標	16
第3章 基本的方向と各種施策	17
＜基本目標1＞「やりたい仕事ができる村づくり」	17
施策(1) 農林畜産業の振興対策	17
施策(2) 商工業の振興対策	18
施策(3) 地域資源を活用した新たな雇用の創出対策	19
＜基本目標2＞「若衆や女衆が集まる村づくり」	20
施策(1) 移住・定住促進対策	20
施策(2) 関係人口促進対策	21
＜基本目標3＞「安心して出産し子育てできる村づくり」	22
施策(1) 結婚対策	22
施策(2) 出産・子育て対策	22
施策(3) 教育対策	23
＜基本目標4＞「いきいきと暮らせる村づくり」	24
施策(1) 保健・医療・福祉対策	24
施策(2) 生活環境対策	25
施策(3) 地域文化・集落支援対策	25
第4章 総合戦略を進める上での留意点	26
1. PDCAサイクルの確立	26
2. 官民連携や広域連携の強化	26

第1章 総合戦略策定に係る基本的な考え方

1. 総合戦略策定の趣旨

近年、社会問題となっている人口減少・少子高齢化の進行に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたり、活力ある日本社会を維持していくことが課題となっています。

これに基づき、国では、平成26年に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。令和元年度には第2期「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定し、日本の人口の現状と将来の姿が示され、今後目指すべき将来の方向を、具体的には、出生率を1.8程度まで向上させ、令和42年に1億人程度の人口を確保することを目標としています。

栄村は、平成28年3月に「栄村総合戦略」、「栄村人口ビジョン」を策定し、「栄村人口ビジョン」で掲げた「令和22年の目標人口1,400人」を目指すために、「栄村総合戦略」において「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」を主軸に4つの基本目標を掲げ、基本目標ごとに具体的な施策を掲げると共に、重要業績評価指標（KPI）を示して計画期間中（平成27年度～平成31年度）の目標達成を目指し、様々な施策や事業に取り組んできました。

これまでの取組により、達成した施策事業、一定の成果を上げている施策事業があるものの、未達成、未取組の事業もあり、基本目標の数値目標となっている出生数や転入者数などは現状と計画の乖離が見られます。

第1期栄村総合戦略が令和元年度で最終年となることから、これまでの取組の成果や課題を分析し、継続的に取組むため「栄村人口ビジョン（改訂版）」で掲げた「令和27年の目標人口1,000人」を目指す「第2期栄村総合戦略」を策定するものです。

総合戦略策定にあたっては、村民アンケートや村内の産業界や行政、金融機関等の有識者等、多くの村民の声を拾い上げ、栄村の実態に合った施策を盛り込んでいます。栄村総合戦略を進めていく上で、村民や事業者のみなさまにご協力を頂き、人口減少・少子高齢化を解決していかななくてはなりません。栄村総合戦略の目標達成のために、村民のみなさまをはじめ、関係機関のご理解とご協力をお願いいたします。

2. これまでの取組の成果・検証

(1) 基本目標1 「やりたい仕事ができる村づくり」

取組んだ主な 施策・事業	○青年就農給付金、集落営農組織法人化支援等の農業支援、造林事業や間伐対策への補助金などの林業支援、家畜預託利子補給などの畜産支援 ○新規企業者への補助金支給と村内企業による新規雇用に対する奨励金支給、プレミアム商品券の販売 ○小水力発電、木質バイオマス発電の可能性の調査
成果	数値目標（6件の創業・起業）を達成し、就労・雇用の場の確保に成果がありました。

(2) 基本目標2 「若衆や女衆が集まる村づくり」

取組んだ主な 施策・事業	○田舎暮らし体験住宅の整備、空き家バンク制度、空き家購入、改修補助などの移住・定住支援や地域おこし協力隊（6名）の受入 ○ジオパークなどの観光資源を活かした着地型観光の推進、カヤの平高原・秋山郷シャトル便の運行及び広域観光圏（信越自然郷、雪国観光圏）と連携した誘客活動
成果	数値目標の達成は難しい状況ですが、広域観光連携商品の増加、地域おこし協力隊の受入など一定の成果はありました。

(3) 基本目標3 「安心して出産し子育てできる村づくり」

取組んだ主な 施策・事業	○婚活イベントやセミナーの開催 ○乳児健診、母親学級、妊婦健診、不妊治療費助成事業 ○村民ボランティアによる学校と地域が連携した学習活動（コミュニティスクール）、「栄小中学校家庭生活スタイル」の作成
成果	数値目標の達成は難しい状況ですが、合計特殊出生率（1.44⇒1.67）や子育て環境満足度（61%⇒64%）など一定の成果はありました。

(4) 基本目標4 「いきいきと暮らせる村づくり」

取組んだ主な 施策・事業	○特定健診、がん検診、人間ドック助成や各種健康教育の実施、村内診療所による医療体制の確保、地域包括的支援サービスの提供 ○雪害救助員、道踏み支援などの克雪支援、デマンド交通など交通弱者対策 ○ふるさと復興支援金、集落支援金による集落支援、栄村公民館を拠点にわら細工教室、豆腐・味噌づくり教室の開催
成果	数値目標の達成はできなかったが、特定健診率の微増、デマンドバス利用者の増、集落支援施策の充実などの一定の成果はありました。

【数値目標・達成度】

基本目標	指標	基準値 (H27)	目標値 (R1)	実績値 (R1)
基本目標1 「やりたい仕事ができる村づくり」	創業・誘致企業件数	—	3件	6件
基本目標2 「若衆や女衆が集まる村づくり」	社会動態数	△7人	10人	△38人
基本目標3 「安心して出産し子育てできる村づくり」	自然動態数	△53人	△30人	△34人
基本目標4 「いきいきと暮らせる村づくり」	え一村だと思ふ村民の割合	53.4%	70.0%	65.4%
	栄村への定住意欲度	41.8%	60.0%	45.9%

3. 総合戦略の構成

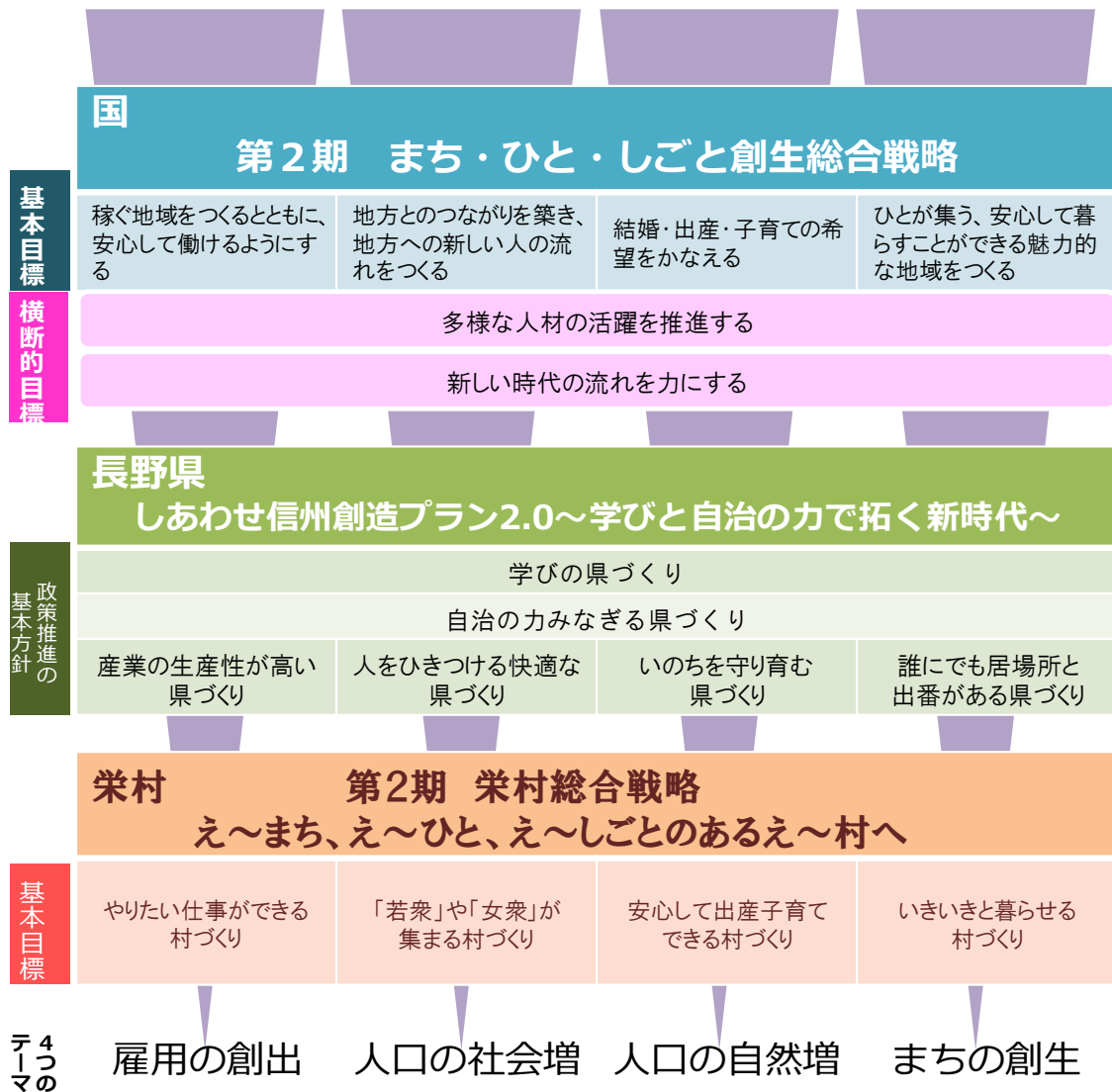
(1) 総合戦略の位置づけ

本総合戦略は、国の「第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略」、長野県の「長野県しあわせ信州創造プラン2.0」を勘案しつつ、栄村としての地方創生の基本目標を示し、それを実現するために取り組むべき施策の方向性を示すものです。

(2) 施策の方向性

国・長野県ともに概ね「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」といったテーマを主軸に施策の方向性（基本目標や施策の基本的方向）を定めています。これらを踏まえ、本村でも以下のとおり、4つのテーマに沿って施策の方向性を定め、第1期から継続した基本目標を設定します（図表1）。

図表1 総合戦略の構成

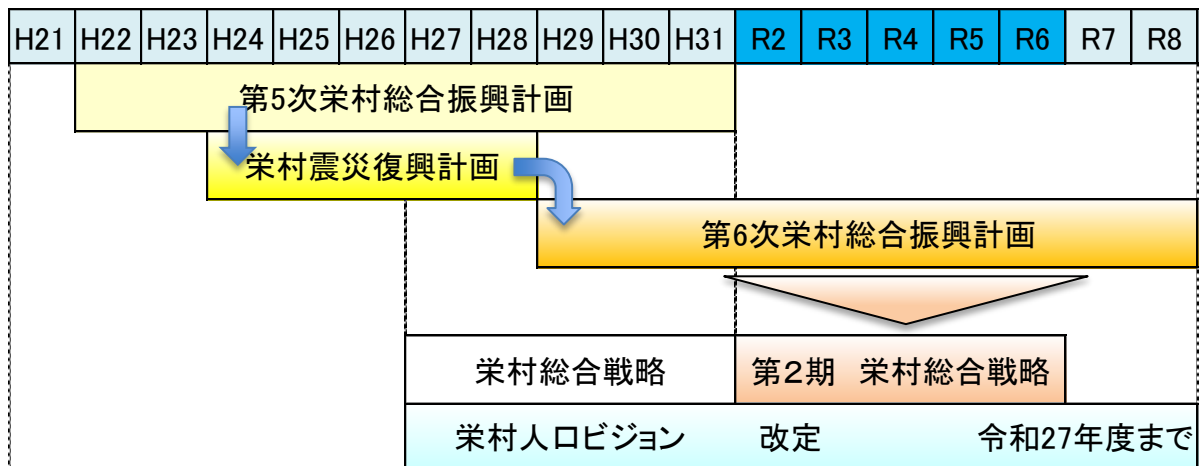


(注) 国、長野県、栄村の基本目標や施策の基本的方向をテーマごとに揃えるため、長野県は施策の基本的方向の掲載順序を入れ替えて表記している

4. 計画期間

栄村総合戦略では、人口ビジョンで掲げた目標人口（令和27年1,000人）を達成するため、令和2年度を初年度、令和6年度を目標年度とする5か年間の計画期間とし、基本目標や施策の方向性、具体的な施策、数値目標を設定し進めていきます（図表2）。

図表 2 総合戦略の計画期間



第2章 総合戦略策定のポイント

1. 本村の将来像

栄村総合戦略は、本村の将来のあり方を展望しつつ、人口ビジョンで掲げた「令和27年人口1,000人」を達成するために令和2年度から6年度までの5年間の中で注力していく施策等を示す計画であります。本村の将来像については、上位計画に相当する「総合振興計画」のビジョンに準ずるものとします。

本村の将来像

え～まち、え～ひと、え～しごとのあるえ～村へ

2. 村民の意識調査

(1) 村民アンケートの概要

栄村人口ビジョンの改訂及び第2期栄村総合戦略の策定にあたっては、定住意向や人口減少問題等に関する意識などに関する村民の意向や実態等を把握するため、平成27年に実施した村民アンケート（以下、前回調査という。）と比較するために同じ内容で、以下に示す2種類のアンケートを実施しました（図表3）。

「定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」は、18歳～79歳の村民515人を対象に村民の定住意向や人口減少問題に関する意識を、「若い世代への意識調査（若い世代のみなさんへのアンケート）」は、高校生世代の村民44人を対象に将来の夢や仕事、定住意向等を調査しました。

図表3 村民アンケート調査 概要

	村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査	若い世代のみなさんへのアンケート
調査期間	令和元年12月16日（月）～令和2年1月7日（火）	
調査対象	栄村に住む18歳～79歳の515人	高校生世代44人 （アンケート調査時点で15歳～18歳の村民）
回収数（回収率）	回収205人 （回収率39.8%）	回収18人 （回収率40.9%）
調査内容	定住意向や人口減少問題に関する意識、行政への要望等	将来の夢や希望する仕事、定住意向等

(2) 村民アンケートからみえる本村の現状と課題

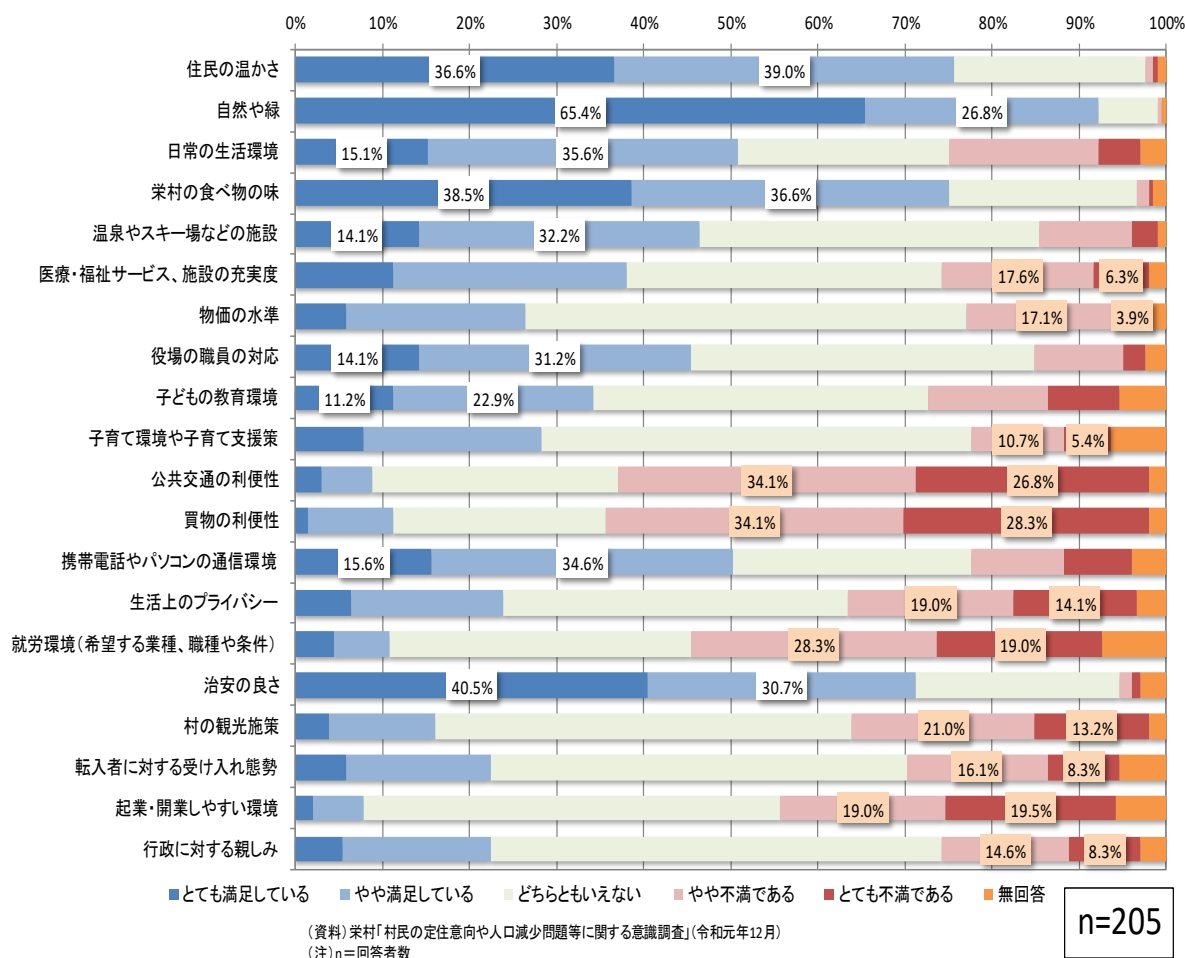
栄村人口ビジョンで掲げた「令和27年目標人口1,000人」を達成するためには、国や長野県が掲げる4つのテーマ「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」に関する現状や課題を村民アンケート等から抽出し、解決策をそれぞれ考えていく必要があります。テーマごとに関連性が高いと考えられるアンケート結果を以下に示し、栄村の現状と課題を整理していきます。

① 栄村に対する満足度

以下の示す図表は、栄村の各項目に対する満足度を示すもので、栄村に対して満足度（「とても満足している」、「やや満足している」の和）の高い項目は、「自然や緑」が92.2%（前回調査83.6%）、「栄村の食べ物の味」が75.1%（前回調査73.6%）、「住民の温かさ」が75.6%（前回調査71.4%）、「治安の良さ」が71.2%（前回調査71.1%）と上位の構成にほぼ変更はないが、満足度の割合がそれぞれ増となっています（図表4）。

一方で、不満足度（「とても不満である」、「やや不満である」の和）の高い項目で目立っているのは「公共交通の利便性」が60.9%（前回調査65.4%）、「買物の利便性」が62.4%（前回調査65.1%）、「就労環境」が47.3%（前回調査53.8%）、「起業・開業しやすい環境」が38.5%（前回調査42.8%）と、こちらも上位の構成にほぼ変更はないが不満足度の割合がそれぞれ減となっています。

図表4 栄村に対する満足度



n=205

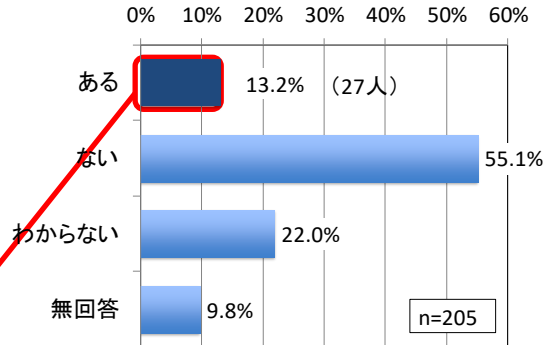
② 栄村からの転出予定の有無とその理由

今後5年以内に栄村から転出する予定を聞いたところ、「ない」が最も多く55.1%、次いで「わからない」22.0%、「ある」13.2%となりました（図表5）。

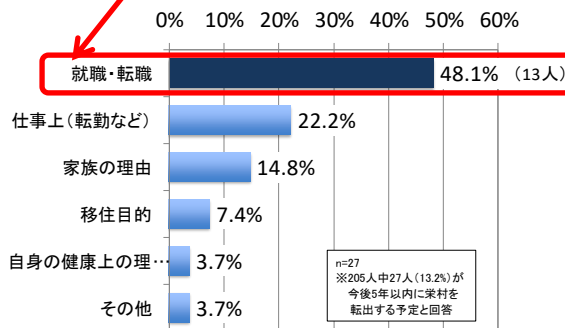
さらに栄村から転出予定のある27人に対して、その理由と聞いたところ、「就職・転職」が48.1%、「仕事上（転勤などの）」が22.2%と最も多く、大半が仕事の関係で転出を考えていることがわかります（図表6,7）。

また、上記で「就職・転職」と答えた13人に対して、就職・転職を栄村以外で考える理由を聞いたところ、「村内企業には希望する業種、職種がないから」が76.9%（前回調査55.6%）、「村内企業では希望する条件に合わないから」が61.5%（前回調査55.6%）と半数以上が、希望する業種、職種がなく、条件も合わないと答えています。

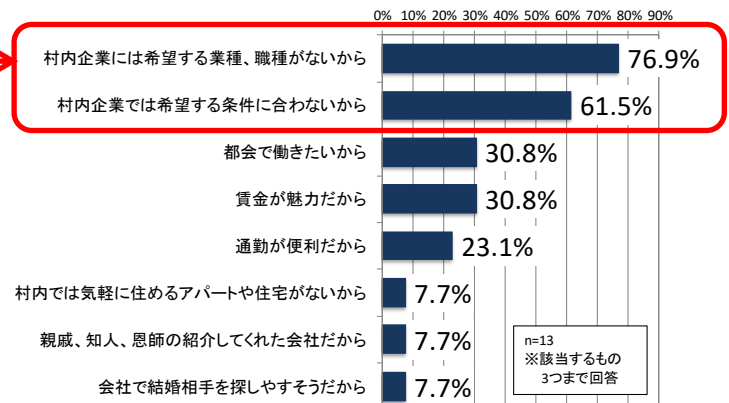
図表5 今後5年以内に栄村から転出する予定



図表6 転出する主な理由



図表7 栄村以外で就職・転職を考える理由

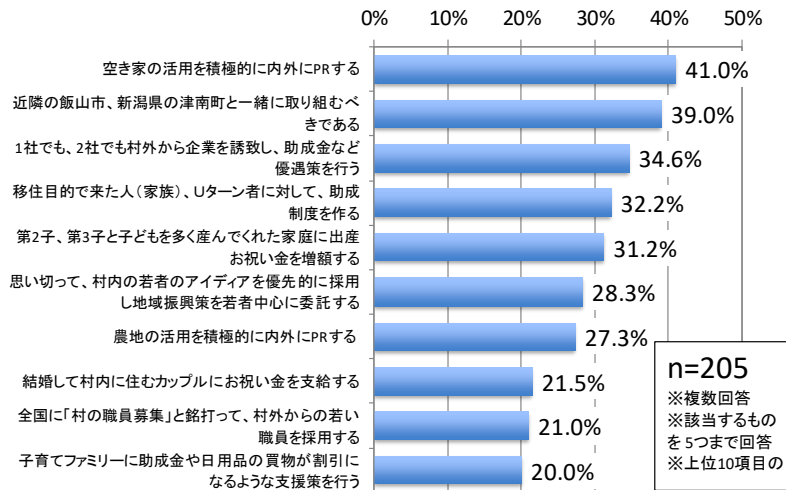


③ 人口減少、少子高齢化問題を解決していくために村が取り組むべきこと

人口減少・少子高齢化問題を解決するための解決策として、上位10項目を以下に示します(図表8)。多い順に「空き家の活用を積極的に内外にPRする」が41.0%(前回調査40.9%)、「近隣の飯山市、新潟県の津南町と一緒に取り組むべきである」が39.0%(前回調査39.9%)、「1社でも、2社でも村外から企業を誘致し、助成金など優遇策を行う」が34.6%(前回調査37.4%)、「移住目的で来た人(家族)、Uターン者に対して、助成制度を作る」が32.2%(前回調査28.0%)、「思い切って、村内の若者のアイデアを優先的に採用し地域振興策を若者中心に委託する」が28.3%(前回調査26.4%)となり、なかでも「第2子、第3子と子どもを多く産んでくれた家庭に出産祝い金を増額する」が31.2%(前回調査23.6%)と割合が大きく増となっています。

前回調査と同様に、空き家活用やUターン者への助成等、移住施策や企業誘致、若者による地域振興を希望する声が多く挙げられているなか、特に移住や若者、子育て世代に向けた項目の割合が増となっています。

図表8 人口減少、少子高齢化問題を解決していくために村が取り組むべきこと

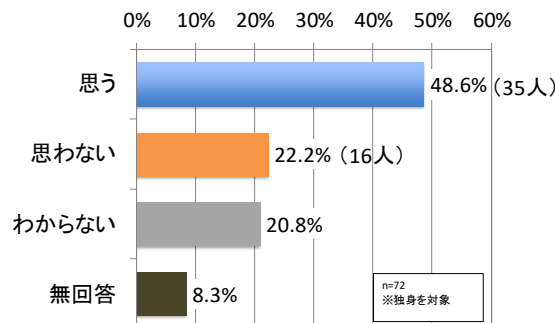


(資料) 栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(令和元年12月)
 (注) n=回答者数

④ 結婚に関すること

独身の村民を対象に「将来結婚したいと思いますか」と聞いたところ、「思う」が48.6%(前回調査53.5%)と最も多く、次いで「思わない」が22.2%(前回調査15.0%)、「わからない」が20.8%(前回調査12.6%)となり、前回調査同様に半数近くが結婚願望を持っていることがわかります(図表9)。

図表9 将来結婚したいと思いますか



(資料) 栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(令和元年12月)
 (注) n=回答者数

⑤ 行政に充実してほしい出産、子育ての支援策

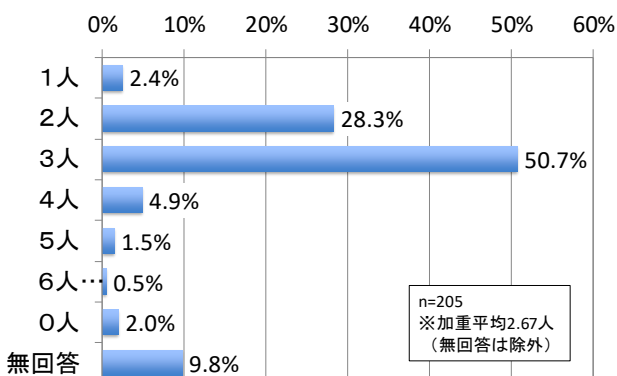
独身、既婚者問わず、「理想的な子どもの数」と「実際に産み育てられる子どもの数」を聞きました（図表 10, 11）。「理想的な子どもの数」は3人（50.7%前回調査 48.4%）が最も多く、次いで2人（28.3%前回調査 28.0%）、4人（4.9%前回調査 5.0%）であり、加重平均すると2.67人となりました。

一方、「実際に産み育てられる子どもの数」は最も多いのが2人（39.5%前回調査 40.6%）で、次に3人（32.7%前回調査 30.8%）、1人（12.2%前回調査 9.4%）であり、加重平均すると2.16人となりました。

「理想的な子どもの数」と「実際に産み育てられる子どもの数」の差が0.51人と乖離しており、出産、子育て支援策を展開し、この差をいかにして埋めていくかが今後の重要な課題となります。

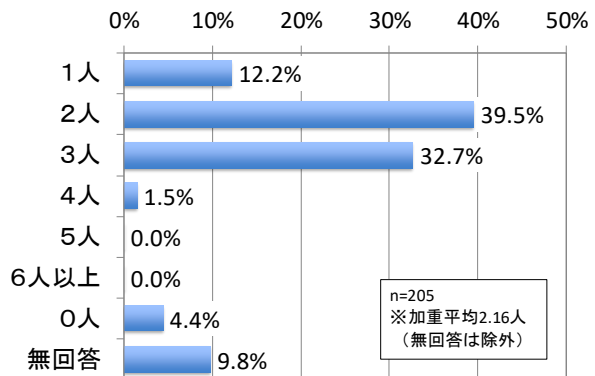
また、「行政に充実してほしい出産、子育ての支援策」については、「正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化」が54.1%（前回調査 49.7%）が最も多く、次いで「保育料や教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減」が34.1%（前回調査 46.2%）、「保育所や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備」が30.7%（前回調査 26.1%）と、前回調査と同じ構成となっています（図表 12）。上記の0.51人の差を埋めるためには、子育てしたい環境整備と共にきめ細やかな経済的支援を検討することも重要といえます。

図表 10 理想的な子どもの数



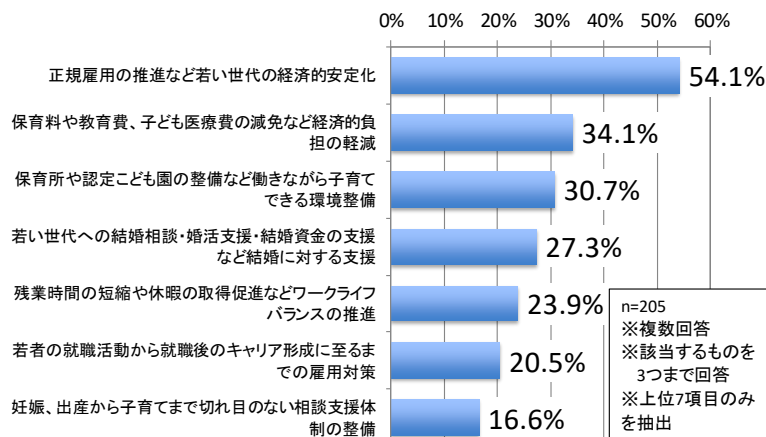
（資料）栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」（令和元年12月）
（注）n=回答者数

図表 11 実際に産み育てられる子どもの数



（資料）栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」（令和元年12月）
（注）n=回答者数

図表 12 行政に充実してほしい出産、子育ての支援策



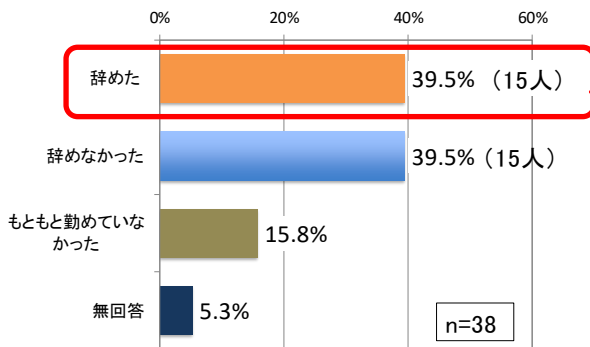
（資料）栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」（令和元年12月）
（注）n=回答者数

⑥ 妊娠、出産時の退職理由

現在子育て中の村民 38 人を対象に、妊娠、出産時に仕事を辞めたかどうか、聞いたところ、「辞めた」が 39.5% (前回調査 47.5%)、「辞めなかった」が 39.5% (前回調査 35.6%)と、約 4 割が妊娠や出産を機会に退職していることがわかります (図表 13)。

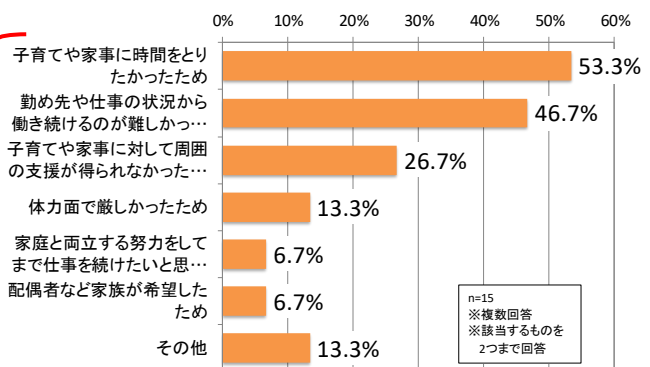
また、退職した理由として、「子育てや家事に時間をとりたかったため」が 53.3% (前回調査 35.7%) と最も多く、次に「勤め先や仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」が 46.7% (前回調査 60.7%)、となりました (図表 14)。妊娠、出産を機会に、仕事を続けながら子育てをするのが難しいと考え、退職をした村民が多いのではないかと考えられます。

図表 13 妊娠、出産時の退職の有無



(資料) 栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(令和元年12月)
(注) n=回答者数

図表 14 退職した理由



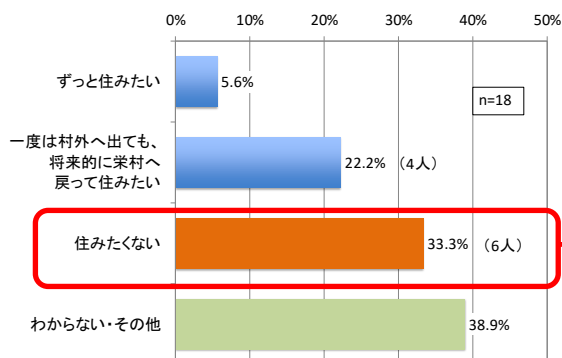
(資料) 栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(令和元年12月)
(注) n=回答者数

⑦ 若者による栄村への定住意向

高校生世代 18 人から、栄村への定住意向 (将来、栄村に住みたいか) を聞いたところ、「ずっと住みたい」が 5.6% (前回調査 0%)、「一度は村外へ出ても、将来的に栄村へ戻って住みたい」が 22.2% (前回調査 55.0%)、「住みたくない」が 33.3% (前回調査 25.0%)と、約 3 割が将来的に定住すると答えています (図表 15)。しかし、将来的に戻って来るにせよ、若者は一度、村外に出たいと考えていることがわかります。

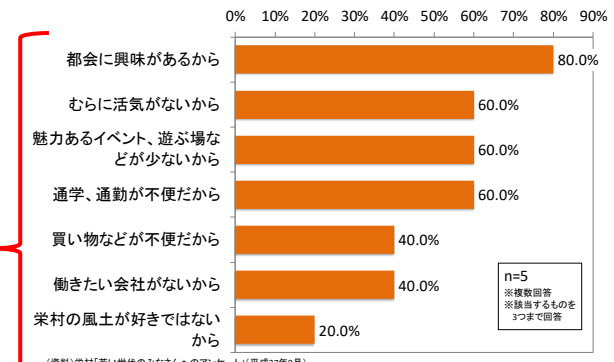
また、栄村に定住したくないと回答した若者 6 人にその理由を聞いたところ、「買い物などが不便だから」が 40.0% (前回調査 60%)、「働きたい会社がないから」が 40.0% (前回調査 60%)、「通学、通勤が不便だから」が 60% (前回調査 60%) と、仕事や生活基盤を理由に定住したくないと答える中、「都会に興味がある」が 80.0 (前回調査 40.0%) が大幅に増となっています (図表 16)。

図表 15 若者による栄村への定住意向



(資料) 栄村「若い世代のみなさんへのアンケート」(令和元年12月)
(注) n=回答者数

図表 16 栄村に定住したくない理由



(資料) 栄村「若い世代のみなさんへのアンケート」(平成27年9月)
(注) n=回答者数

⑧ 若者が描く栄村の将来像

若者が描く「栄村の将来像」は、以下のとおりです。共通の声も多く、「自然・体験・交流・観光」、「若者による活躍」、「子どもからお年寄りまで元気で楽しい温かい村」の3グループに分類することができました（図表 17）。

「自然・体験・交流・観光」では「自然」をキーワードに、「自然がきれい」、「自然と共存できる」、「良い状態の自然が残っている」といった、自然の素晴らしさを挙げながらも、「山村留学」、「村暮らし体験交流」等、自然を活かした交流、観光の施策を提言している若者もいました。

また、「若者による活躍」は、若者が働ける場所をつくり、生き生きと活気のある村を将来像として描いていることがわかります。

最後の「子どもからお年寄りまで元気で楽しい温かい村」では、栄村の人の優しさ、温かさ、子どもからお年寄りまでのんびり住める村、新しく住む人を温かく迎えてくれる村という、ハートフルな村のイメージを抱いているのではと考えられます。

その他、全体的に、「活気がある」、「楽しい」、「子どもの声がたくさん聞こえる」村といった前向きな言葉もあり、栄村に対する思いが強いことがわかります。

図表 17 若者が描く栄村の将来像

自然・体験・交流・観光	若者による活躍	子どもからお年寄りまで元気で楽しい温かい村
<ul style="list-style-type: none"> ・村の良さを村外にアピールし若い世代を村に取り込める具体的な策があれば良い。特に姉妹都市など。 ・栄村の魅力である自然を使った観光業を発展させ国内外からたくさんの人が訪れる楽しい村。 ・もっと他県、他国から何かをきっかけに訪れて少しでもいいからにぎわえば良い。 ・排気ガスの無い空気のキレイな村、生で飲んでもおいしい水道水が欲しい。 ・県外からも県内からもたくさんの人たちが訪れてにぎわう村。 ・自然あふれる村。 ・たくさんの自然の観光かジオパーク巡りを楽しんでいる人がたくさんいる村。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活気のある村 ・子どもの声がたくさん聞こえるような楽しい活気ある村。 ・探求心や課題発見力、解決力をもち学力が高い子どもを育成できる村 ・職種がより多くなり、働ける職場が増え、よりたくさんの人が協力して、誰でも楽しく過ごせる村。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そんなに新しいものをどんどん取り入れるのではなくて、いつまでもいつまでも細く長く自然豊かで村民と村民がみんな家族のように手を取り合える、そんな村になってほしい。 ・安い村民・村営住宅が充実して若者が住みやすい村。 ・子育て世代が住みやすい村 ・もっと身近なこと（子どものこと）を改善していけるような村 ・お年寄りがのんびり過ごすにはちょうど良い村

（資料）栄村「若い世代のみなさんへのアンケート」（令和元年12月）

（注）複数回答している場合あり

（注）発言の趣旨を変えない範囲で、文章を修正している箇所がある

2. 基本目標（4つの基本目標の中で特に重点的に進めるべき施策）

（1）検討するべき対応策

前述では村民アンケートをもとに、栄村の現状と課題を抽出しました。栄村人口ビジョンや村民アンケート結果等を踏まえ、4つの各テーマ「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」にこれを整理した上で、解決策とその方向性を基本目標として掲げます。

なお、令和元年12月に行った村民アンケートの結果からみえる本村の現状と課題が、前回調査とほぼ変わらないことから、第2期においても基本目標や施策の柱立てについては現行を維持します。

テーマ1「雇用創出」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> 人口ビジョンやアンケートをみると、栄村の「就労環境」（47.3%）、「起業・開業しやすい環境」（38.5%）について、村民の不満足度が高くなっています。 住みたくない理由のうち、「働きたい会社がないから」の回答割合が34.0%と第5位となっています。 就職・転職を栄村以外で考える理由として「村内企業には希望する業種、職種がないから」（76.9%）と「村内企業では希望する条件に合わないから」（61.5%）と過半数を超えています。 人口減少、少子高齢化が止まらない要因の村民意識として「村内に働く場が限られているから」と答えた割合が78.5%と高い状況です。 人口減少問題の解決策として「1社でも、2社でも村外から企業を誘致し、助成金など優遇策を行う」（34.6%）という声がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業で村の資源でもある農林畜産業の振興に重点を置いて、種々の振興策を展開することにより雇用の増加を図ることや、意欲ある若者が新規就農しやすい環境を整えていきます。 栄村牛をはじめ、栄村で生産される農林産物は観光資源にもなり得ますので、観光消費の拡大を図り雇用の創出へつなげるといった方向性が考えられます。 村内で買い物をする時の優遇策を講じることによって村内消費の拡大はもちろん、ふるさと納税などを活用した村外での消費拡大を図り、商工業の雇用創出につなげていきます。 村の自然資源、歴史・文化を掘り起こし、関連した事業の創造や企業誘致、後継者育成について時間をかけて取り組んでいきます。



＜基本目標1＞やりたい仕事ができる村づくり
<ul style="list-style-type: none"> 意欲のある新規就農者の育成、栄村の持つ地域資源を活用した事業の創造、住んでいる村民がメリットを受けられる消費喚起策などにより、各産業の振興を図ることで「やりたい仕事」が増えていく村づくりを目指します。

テーマ2「人口の社会増」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> 人口ビジョンやアンケート結果によると、村民に聞いた栄村への定住意欲度は（「将来的に戻りたい」回答割合を含む）は半数を占めますが、高校生世代では「ずっと住みたい」という声はわずかで、若い世代の定住意欲はかなり低い結果でした。 高校生世代の「住みたくない」理由の上位3つは、「都会に興味があるから」（80%）、「村に活気がないから」（60%）、「魅力あるイベント、遊ぶ場などが少ないから」（60%）となっています。 一方で栄村の「住民の温かさ」、「自然や緑」、「食べ物の味」、「治安の良さ」について、満足度が高く、住みたい理由にも反映されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄村の持つ豊かな自然と村民の温かさを、多様な価値観を持つ若者や女性に農村移住の魅力として提案し、移住定住の促進を図っていきます。 移住についての村民の理解を深め、お互いがスムーズに交流できるような施策やイベントの実施を支援します。 地域おこし協力隊の積極的活用により、若い世代や女性が主役となり、観光施策を推進していきます。 近隣の市町村と連携を強化することで、エリア内の周遊観光を充実させて観光客誘致を図り、関係人口の増加と将来の移住に結びつけていきます。



<基本目標2> 「若衆」と「女衆」が集まる村づくり
<ul style="list-style-type: none"> 住みやすいと思える移住施策に力を入れて社会増を図ります。事業の展開や観光施策には、若い世代や女性の新しい発想を取り入れて、地域の賑わい再生を目指すと共に「『若衆』と『女衆』が集まる」村づくりを目指します。

テーマ3 「人口の自然増」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・人口ビジョンやアンケート結果より、若い世代の中に「結婚」という意識が減ってきており、人口の流出と共に出会いの減少が婚姻の減少という悪循環に陥っています。 ・未婚男女の半数以上に「結婚」希望があるものの、「交際している特定の異性がいる」回答は2割にも満たず、また、「婚活をしていない」回答が67.3%に上るなど、結婚観については、ある意味、未婚男女の複雑な心境を反映した結果となっています。 ・一方、出生率については全国、県と同様に低下傾向にあります。アンケートからは理想的な子どもの数2.67人と、実際に産み育てられる子どもの数2.16人の差として考えられる理由のトップに「世帯収入など経済的事情」を挙げています。 ・日常的に子どもを見てもらえる親族や施設などがあるなど子育て環境は良好と言えますが、出産等を機に、勤め先や仕事の状況から働くことを断念したと回答した割合が4割となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「結婚したい」人が結婚できるように、広域連携も含めて婚活イベントを開催、あるいは開催を支援し、結婚に際してはお祝金を支給するなど村民全体で温かくお祝いします。 ・経済的事情により「もうひとり産む」ことを断念することがないように、子育てに必要な支援体制の整備、一段の負担軽減策を講じるなど、若い世代の経済的安定化を図ることで、子育てしたい環境整備を充実させていきます。 ・未来を担う子どもたちには、栄村に誇りが持てる教育と一人一人の良さと可能性を見出し、伸ばす教育活動を展開していきます。



<基本目標3>安心して出産し子育てできる村づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・未婚者の出会いの場を増やして結婚につなげ、子を産み育てたい環境を整備することで、「安心して出産し子育てできる」村づくりを目指します。

テーマ4 「まちの創生」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より、「冬の生活が大変」、「買物が不便」が住みたくない理由の上位のほか、公共交通が不便、就労環境が良くないなど、村民の日常生活に係る不満が目立っています。 ・人口ビジョンによると、高校生世代が卒業後、進学及び就職で村を離れたいという意識が高いといえます。 ・若い世代の流出は地域全体の活力や集落の賑わいの低下、克雪対策や公共サービスの低下をもたらす懸念があります。 ・一方、高校生が描く栄村の将来像については、「自然と共存できる、人の優しさ、温かさを感じられる、世代を超えて元気に住める村」といった心や精神の豊かさを享受できる村という意見がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進展していく中で村民が安心して暮らせる医療体制の充実を図っていきます。 ・冬の生活への不満度を減らすために克雪対策の一層の充実を図っていきます。 ・交通や買物に係るインフラや利便性の問題は時間をかけて研究し、栄村に見合ったサービスの提供ができるよう考えていきます。 ・栄村の人々の温かさが人を呼び寄せる魅力となって、移住・定住意欲の増加に焦点を合わせると共に、村民全員が郷土を愛するといった教育を展開し、全国から注目されるようにしていきます。



＜基本目標4＞いきいきと暮らせる村づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・村民がいつまでも健康で快適に暮らせるように、保健・医療体制、生活環境を充実させると共に、郷土愛を育む教育に取り組み、「いきいきと暮らせる」村づくりを目指します。

(2) 目指すべき4つの基本目標

栄村総合戦略の体系図は以下のとおりです（図表 18）

総合戦略において重点となる4つの基本目標を達成するために、基本目標ごとに2～3の施策で構成されています。また、各施策を進める上での具体的施策として、施策ごとに1～3掲げています。栄村総合戦略の骨子となる、これら基本目標、施策、具体的施策で組み立てられた栄村総合戦略の体系図は以下のとおりです。

図表 18 栄村総合戦略 体系図



基本目標1

やりたい仕事ができる村づくり

基本的方向

- ・ 基幹産業である稲作を中心とした新規就農者及び農業後継者の確保並びに育成による農業振興と、豊富な資源である森林を活用した林業振興、肉牛生産を中心とした畜産振興を図り、雇用促進と後継者育成を目指します。
- ・ 創業支援、企業誘致により就労・雇用の場の確保を図ると共に、村内商工業者による消費拡大施策、経営安定支援を行います。
- ・ 新エネルギーを活用した事業の推進及び伝統工芸技術の継承施策による起業支援により、村に新たな雇用の創出を目指します。

数値目標

	基準値 (R1)	目標値 (R6)
● 創業・誘致企業件数 (累計)	1 件	4 件

施策(1) 農林畜産業の振興対策

具体的施策1		
栄村から全国へ、海外へ発信できる農業人の育成、確保を目指します		
	重要業績評価指標 (KPI)	
	基準値(R1)	目標値 (R6)
<ul style="list-style-type: none">・ 新規就農者及び農業後継者の確保・育成並びに営農団体の法人化を支援します。・ 農業関係団体の農業生産振興対策を支援し、農業生産額の増加を目指します。・ 農産物加工の産業化やブランド化を図り、村内消費を拡大すると共に、ふるさと納税なども含めた多彩なチャネルで売り込む方法を農業従事者と考えていきます。	農業 担い手数 (人・農地 プラン)	31 人 35 人

具体的施策2 豊かで美しい森林資源を保護する環境重視型林業の振興に力を入れます			
<ul style="list-style-type: none"> ・林業団体への支援と新規林業従事者の育成に努め、林業生産額の増加を目指します。 ・後世まで引き継ぐことができる森林保護策を考えていきます。 ・地元産材を活用した木工品開発などの研究を進めます。 ・「雪萌山菜」のブランド化の推進と、生産・加工販売や村内消費拡大を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	林業従事者数	25人	30人

具体的施策3 栄村牛ブランドの確立を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営者への支援及び畜産業従事者の育成に努めます。 ・栄村牛ブランド確立のために、村内消費の拡大や、県内外飲食店、ホテル等への売り込みを図ります。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	飼育頭数	340頭	370頭

施策(2) 商工業の振興対策

具体的施策1 若い世代が働きたい環境を整備します			
<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口を設置し、商工会・経済団体等の支援団体と協力して、若い世代が起業及び就業しやすい支援策を検討します。 ・地域の資源を活用した産業の創造・企業誘致に努め、継続的な雇用の創出を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	累計相談件数	10	25

具体的施策2 村内で消費するメリットを向上させて商工業を支えます			
<ul style="list-style-type: none"> ・村内で買い物するときの優遇策を充実させて、商工業の経営安定と村内での経済循環の促進に努めます。 ・ふるさと納税などを通じ、栄村製品のPRと村外からの消費需要を拡大させます。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	ふるさと納税品目数	3品目	30品目

施策(3) 地域資源を活用した新たな雇用の創出対策

具体的施策1 新エネルギーについての研究を本格的に着手します			
・豊かな自然エネルギーを活用した事業の創造・ 企業誘致による雇用創出の可能性を探ります。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	事業着手数	—	2 事業

具体的施策2 地域の自然・歴史・文化を取り入れた産業を掘り起こします			
・村の伝統工芸の後継者育成による雇用創出と自 然及び文化を活かした創業を支援し、地域振興 による特色ある村づくりを目指します。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	支援策件数	3 件	5 件

基本目標 2

「^{わけしよ}若衆」や「^{おんなしよ}女衆」が集まる村づくり

基本的方向

- ・豊かな自然と村民の温かさや地域文化などの村の魅力を発信し、移住に必要な情報や環境を整備することにより、移住定住の促進を目指します。
- ・多様な価値観を持つ若者や女性を中心に栄村らしい生活「栄村ライフ」を提案し、農村移住の魅力を発信します。
- ・村民が地域資源の魅力を認識し、その資源を観光商品化する事や、栄村の魅力を多くの人へ積極的に情報発信をすることにより新たな関係人口の創出を目指します。また、広域観光事業の強化や姉妹都市、友好都市との交流を一層促進し、都市住民の「心のふるさと」を目指します。

数値目標

	基準値 (R1)	目標値 (R6)
●生産年齢人口社会動態数	△17人	△7人

施策(1) 移住・定住促進対策

具体的施策 1		
新しい息吹を呼び込みます		
	重要業績評価指標 (KPI)	
	基準値(R1)	目標値 (R6)
<ul style="list-style-type: none"> ・体験住宅を利用した、おためし居住や体験ツアーに積極的に取組みます。 ・居住環境の整備のための経済支援策の推進を図ります。 ・より集客効果の高い情報発信を行うため、県や近隣市町村と連携した移住セミナー等へ積極的に参加し、移住・定住の促進を図ります。 ・空き家を活用した移住促進に取組みます。 ・地域住民との交流の機会を設け、移住者を温かく迎えることのできる環境を整えます。 	累計 移住者数	15組 (年3組)

具体的施策2			
地域おこし協力隊等を積極的に活用します			
<ul style="list-style-type: none"> ・村内各集落に居住して地域おこし支援や集落活動支援を実施し、集落へ定住を促す「地域おこし協力隊」の積極的な活用を図ります。 ・任期終了後も村に定住できるための支援を行い、若い世代や女性を中心に新しい発想での事業の展開を応援します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	任期終了後定住人数	2人	6人

施策(2) 関係人口促進対策

具体的施策1			
地域資源を十分活用して観光施策に反映させます			
<ul style="list-style-type: none"> ・登山、雪、ジオパーク、地域の文化等、地域資源を活用した村の魅力を、ホームページやSNS、栄村観光大使などを通じて積極的に発信します。 ・若い世代や女性の発想や観点を積極的に取り入れ、「おもてなし」の体制を構築し、着地型観光を推進することにより、関係人口の創出・拡大を図ります。 ・地域の賑わいの創造を図るため、近隣市町村と連携し観光客の誘致を積極的に展開していきます。 ・姉妹都市、友好交流都市をはじめ、都市部の住民や団体、行政同士の多彩な地域間交流を促進し関係人口の創出・拡大を図ります。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	年間観光者数	4.9万人	9万人

具体的施策2			
「連携」をキーワードとした広域観光施策を進めて、魅力ある村を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の市町村とお互いの強み・弱みを補完しながら連携し、「信越自然郷」や「雪国観光圏」等広域で交通等観光施策を推進し、周遊観光や観光客誘致が図れるようにします。 ・インバウンド対策は県と、観光商品の開発は民間企業と積極的に連携し、魅力ある観光地を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	広域連携観光商品の開発	5件	8件

基本目標3

安心して出産し子育てできる村づくり

基本的方向

- ・近隣市町村との連携によるイベント等も視野に、出会いの場の創出を目指します。
- ・出産、子育てに係る支援施策の充実を図り、安心して出産、子育てができる環境整備を進めると共に、出産・子育て世代の交流機会の創出を目指します。
- ・自然環境や地域資源を活用し、子どもたちが地域への愛着を深めるための特色ある教育環境の整備を目指します。

数値目標

	基準値 (R1)	目標値 (R6)
●年少人口数 0～14 歳	114 人	112 人

施策(1) 結婚対策

具体的施策1			
結婚したい人の希望を応援します			
・結婚希望者に出会いの場を提供するため、広域連携等による結婚支援対策を推進します。 ・結婚に際しては、御祝金を支給するなど村民全体で温かくお祝いします。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	年間イベント開催数	3 回	5 回

施策(2) 出産・子育て対策

具体的施策1			
妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援により安心して出産し育児のできる村を目指します			
・子育て世代包括支援センター機能の整備に努め、必要な情報提供・助言等を行います。 ・子育てに関して県や近隣市町村及び地域での横断的な連携を進めます	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	合計特殊出生率	1.67	1.95

具体的施策2			
「栄村こそ子育てに相応しい」と言われる村を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援体制の整備及び少人数ならではの手厚い保育、子育てに係る経済的支援等を検討し、子育てしたい村づくりを進めます。 ・出産並びに就学等について、御祝金を支給するなど村民全体で温かくお祝いします。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	この地域で子育てをしたと思う割合	89%	100%

施策(3) 教育対策

具体的施策1			
子どもたちが村に誇りを持てる教育を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然、歴史、文化、伝統行事等を活用し、村に誇りを持ち地域への愛着を深め、学力の向上につながる教育を推進します。 ・地域と学校が連携し学習するコミュニティスクールに取組みます。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	子どもたちが村を知るための取組数	3件	6件

具体的施策2			
子どもたち一人一人の良さや可能性を見出し、伸ばす教育活動を展開します			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育体制や環境整備を図り、基礎的学力の向上を推進すると共に、豊かな人間性を育む教育を目指します。 ・学校と家庭が連携して学習環境を整え、家庭学習を推進します。 ・少人数の特性を生かした「きめ細やかな教育」を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(R1)	目標値 (R6)	
	学習習慣形成度	42%	65%

基本目標4

いきいきと暮らせる村づくり

基本的方向

- ・ 村民がいつまでも健康で、いきいきと暮らせる地域をつくり、村民全員が安心して暮らせる村を目指します。
- ・ 冬の雪に負けない栄村独自の克雪対策を実施し、冬でも過ごしやすい環境づくりを目指します。また、公共交通の利用向上対策と高齢者の買い物弱者対策に取組み、高齢者でも暮らしやすい村づくりを目指します。
- ・ 人口減少により地域の活力が失われつつある状況であることから、村外の若者やボランティア等の交流を取り入れ、地域のにぎわいづくりを目指します。また、暮らしや風習、地域文化の継承を推進します。

数値目標

	基準値 (R1)	目標値 (R6)
● え一村だと思ふ村民の割合	65.4%	70.0%
● 栄村への定住意欲度	45.9%	60.0%

施策(1) 保健・医療・福祉対策

具体的施策1			
健康づくり施策を充実させて健康長寿の村を目指します			
・ 村民の健康づくりの推進と予防対策を重点に取り組み、子どもの健康推進及び高齢者でも明るく健康で暮らせる村づくりを目指します。 ・ 村民の健康を守るため予防接種の啓発に努め、感染症および感染症の合併症による健康被害を低減させます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	特定健診受診率	50.3%	60.0%

具体的施策2			
村民が安心して暮らせる医療体制等の整備に努めます			
・ 身近な医療環境を整えるため、村内診療所及び広域連携による医療体制の確保を図ります。 ・ 高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい生活を継続していくため、地域の包括的支援・サービス提供体制を築きます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	介護予防事業参加者数	972人	1,000人

施策(2) 生活環境対策

具体的施策1 雪に強い村づくりを目指します			
・克雪対策の一層の充実を図り、降雪時期でも過ごしやすい村づくりを進めます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	克雪対策支援件数	4 件	6 件

具体的施策2 村民の移動手段の確保に努めます			
・学生や交通弱者支援のため、運行会社と連携し、路線バスやデマンドバス及びJRの利用向上対策を進めます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	デマンドバス利用者数	6,004 人	6,500 人

具体的施策3 高齢化の進展に伴う「買物弱者」の対策に努めます			
・商工会や村内商工業者と連携し買い物代行サービスなどの可能性について研究します。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	研究実績	—	1 件

施策(3) 地域文化・集落支援対策

具体的施策1 集落機能を再生し、集落の賑わい創出に努めます			
・集落や地域団体が自主的に行う地域活性化施策等を推進し、地域のにぎわいづくりを目指します。 ・地域おこし協力隊等マンパワーの提供を支援し、コミュニティの維持・向上に取り組みます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	支援施策件数	4 件	6 件

具体的施策2 「村民全員が栄村博士である」という村を目指します			
・受け継がれた暮らしや文化、風習、歴史等について継承し、郷土を愛する教育等を推進します。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(R1)	目標値 (R6)
	講座開催数	9 回	15 回

第4章 総合戦略を進める上での留意点

1. PDCAサイクルの確立

総合戦略の進行管理においては、PDCA サイクルによる管理体制を確立し、重要業績評価指標（KPI）等をもとに施策を客観的に点検、検証を行っていきます。この過程の中で、施策の追加、見直しを行い、必要に応じて総合戦略の改訂を行っていきます。

また、総合戦略の客観的な効果検証に際しては、外部有識者をはじめとする「栄村総合戦略推進委員会」による検証を行い、その妥当性・客観性を担保します。

<PDCA サイクルとは>

PDCA サイクル：Plan-Do-Check-Action の略称のことで、Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点を事業実施のプロセスの中に取り込むことで、継続的な改善を推進するマネジメント手法のことです。

2. 官民連携や広域連携の強化

総合戦略で掲げた各施策を効果的に進めるためには、行政のみならず、村民や事業者、各種団体との連携を強化した上で、その技術や経験を取り入れていく必要があります。各施策の進捗状況に応じて、随時プロジェクトチームを設置し、官民連携による推進体制を進めていきます。

さらに、広域的な観光振興や飯山駅を起点とした2次交通施策等においては、信越自然郷や雪国観光圏をはじめとする、近隣市町村との連携も必要であり、必要に応じて広域連携による施策を推進していきます。

編集・発行

栄村 総務課 財政係

〒389-2792

長野県下水内郡栄村大字北信 3433 番地

電話 0269-87-3111（代表）

F A X 0269-87-3083

